

道独自削減終了 4月から「まともな給与がでる！」

はばたき

道高教組札幌支部
(札幌市中央区大通西12丁目
北海道高等学校教職員センター
3階)
TEL 011-271-5875
FAX 011-271-5895

3月14日、道議会で補正予算が議決されました。これにより1月の交渉で決まったベースアップ(平均0.15%)、ボーナス0.05月の引き上げが行われ、3月の給料日に「差額払い」が行われました。月例給の引き上げ額は初任層では月額2800円、30歳付近(10年目)で月額2000円、40歳付近(20年目)以降は1100円で「差額」は引き上げ額×15月分(4〜2月+ボーナス約4月)とボーナスの0.05月分になります。初任層では2800円×15月とボーナスで5万円以上です。

ただし、初任層以外の月例給は去年4

給与差額分が支給

月に「給与制度の総合的見直し」で平均2%の賃下げが行われているので(現在は3年間の現給保障中)このベースアップと1月の昇給をあわせても現給保障額に届かない40代の中堅層(2〜89号俸以上)以降にはベアの差額があります。0.05月分だけということでは、到底容認できるものではありません。

2月、道教委は、道高教組との人事評価最終交渉において、多くの教職員の「導入反対」の声を無視し、4月実施を強行しました。すでに実施されている他府県の実態から「制度」が教職員集団の分断・序列化教職員に対する管理統制強化をもたらし、教育に重大な問題をはらんでいるとの強い声もあがっているも

人事評価制度 4月強行実施

管理職の問題をどう解決する

道教委は、2月下旬〜3月、管理職への評価者研修を行い、その後各学校において管理職からの「制度」にかかわる「説明」を行うとしています。各学校ではどうなっているのでしょうか。

具体的には今後、「人事評価シート」の記入提出(4月〜5月)、年3回の評価者との面談

18歳選挙権をめぐる争点となつて、3つのが争点となつていふことではないでしょうか。

そのひとつは、高校生の政治活動の自由という基本的な権利をどう保障するかという問題。2つ目に教育における「中

「闘争・平和カンパ」ありがとうございました!

昨年6月・12月期末手当の時期、札幌支部への「闘争・平和カンパ」に多くの教職員のみならずのご協力いただきましたことに心よりお礼申し上げます。

みなさんから寄せられたカンパは、「賃金闘争」や教職員の生活権利を守る闘い、憲法・平和を守りいかにすくなくみなさんに活用させていただいているほか、カンパの多くを札幌支部独自に発行している全教職員向けの情報紙「はばたき」の発行に支出し、皆さんへできるだけ還元できるようにしています。

札幌支部は、引き続き「働きやすい民主的な職場づくり」「子どもたちが人間として大切にされる学校・地域づくり」をすすめるために奮闘していきますので今後ともよろしくお願ひします。

北海道高教組札幌支部
札幌市中央区大通西12丁目 北海道高等学校教職員センター3階
TEL 011-271-5875

ようこそ 札幌支部へ 2016 大歓迎会

2016年4月2日(土) 17:30~

センター4階大会議室 (前段16:00から分會代表者会議を行います)

楽しく語り合おう、
ござってご参加ください。
高教組職員以外の方も、是非ご参加ください。

18歳選挙権・主権者教育を考える

新年度を間近に控え、学校では、「18歳選挙権・主権者教育をどう始めるか」、研修会や教育課程編成などで話される機会が多くなっていると思います。「はばたき」では、7回程度のシリーズで、この問題を考えていきます。ご一読ください。

授業実践「18歳選挙権が始まります」

文科省・総務省作成の副読本「私たちが拓く日本の未来」が全国の高校に配布され、その使用の報告が道教委から義務付けられています。学校によって担任に回されHRで配られたり、地歴公民科に任ざれているところもあるでしょう。

私の授業は、1年生の世界史Aで学年末考査終了後に2クラスで実施しました。まず「あなたが政治家(政党)を選ぶときの基準はなんですか?」という

質問に答えてもらいました。生徒の回答は、「人柄・誠実そうか」等が一番多く、次いで「国民のことを考えている」「公約を守る」と続きました。次に今の日本の国会議員を出している政党を取り上げ、穴埋めプリントで確認しそれぞれの公約を紹介しました。それを受けて最後に「あなたが政治に期待することは何ですか」と問うたところ、「消費税を上げないほしい」と「景気対策」がダントツで多

く、「戦争をしないで」「原発廃止」なども少数意見ながらありました。中には「マニフェストを見て決める」という意見もあり、生徒は正しく主権者意識を持っていると感じました。

自分たちが政治を変えるんだとの気概は、まさに本人が主権者だと認められていなければ育たないわけで、それには普段の政治教育が必要です。この授業をやってみて、いかに「生きた」政治を生徒に考えさせるかが今後とも必要だと実感しました。主権者教育は一度きりの授業だけではなく、あらゆる場面で実践することが必要でしょう。

全国が注目する北海道5区補欠選挙 史上初の野党統一候補成る!

昨年9月の安保法制(戦争法)強行のもとで、暴走政治を許さない野党共闘の動きが進んでいます。そうした中で初めて行われる全国注目の国政選挙が衆院北海道5区(厚別区と石狩管内の市町村)と京都3区の補欠選挙となりま

立性」の問題をどう考えるべきかという問題。3つ目に教職員の政治活動の自由を保障し、教職員自身の政治的リテラシーを高める課題です。これらの課題について、今後の連載で考えてみたいと思います。(つづく)

札幌支部第17回定期大会開催

キックオフは 職場の「アベノミクス」

一年に一度すべての分会からの代議員によって構成され、組合民主主義の基礎となる札幌支部定期大会が、二月二〇日、大通り西二十二丁目の高校教職員センター大会議室で行われ、代議員・執行部あわせて71人が参加しました。

大会の冒頭、桑原支部長は、みずからの職場で

の経験を通して、全教共済カンパーンが「職場の好循環をつくり出すスイッチ」になっていることを紹介し、職場のコミュニケーションの端緒としてのとりくみの強化を呼びかけました。

尾張書記長の議案提案に続いて討論が行われ、「職場新聞や『はばたき』の配布によって、職場での高教組の存在感が増している」一



に一回、タイムリーな時を見計らって全教職員配布に取り組んでいる」「高校における特別支援教育が今後大きな課題になる」などの発言がありました。

支部規約の改正案には修正案も出され討論が行われましたが、規約改正案を含むすべての議案が採択されました。

最後に大会の総意として、「加入の呼びかけ」(3面参照・是非とも一読を)が採択されました。

また、全組合員投票による支部役員選挙の結果が報告され、下表のような支部役員が選出されました。

「危機感」の共有と安心して子育てできる世の中に！

支部長あいさつ
桑原 岳夫

無事2月20日に高教組札幌支部定期大会が終了し、新しい支部体制がスタートしました。

大会の中で、職場での「喜怒哀楽」、「危機感」の「共有」を大切に、全教総合共済を利用して話題作り、モチベーションアップのきっかけにして、楽しみながら仲間を増やしていきたい。という幼少から積み重ねてきた私の価値観の足元がぐらぐらしてきています。今行動しないといけない。と妻に尻をたたかれてもなどにも一緒に参加しました。

乱暴な比較かもしれませんが、地方公務員法や教育基本法に縛られ、クリアファイル組織内で配布しただけで大騒ぎになるのに、国の最高法規をないがしろにしても支持され続ける政治の先行きに不安と危機感でいっぱいです。この危機感をぜひ皆さんと共有して、安心して子どもたちを育てていける世の中にしましょう。

ところで、今年は障害者差別解消法が施行されます。私たちの現場全てに特別支援教育への理解が当たり前のようになりそうです。来年1月

7、9日に1千人規模の全国障害児学級・学校学習交流会が札幌で開催される予定です。それに合わせて5月28日の春の学習会「はるがく」を障害児学校部と共同開催します。特別支援教育は体験してみないとわからないことが山ほどあります。楽しい学習会で、組合に入っていない方ももちろん大歓迎の学習会です。是非、積極的に参加して体験してください。

今年も何かあるかわからない年になりそうですが、「忙しい」に負けずに充実した一年にしましょう。

今だからこそ、あなたに高教組への加入を心から呼びかけます

安保法制(戦争法)が強行採決された昨年9月19日の早朝、シールズ関西の大澤菜実さんが国会前で次のようなスピーチを行いました。(要約)

◎ ▼ □ ☆ ◇ ▲

私は2年くらい前まで、ずっと布団の中にいて「こんな社会で何かと思って、ずっとアニメやアイドルばかり見ていました。でも、私を支えてくれた女の子たちがいて…。でも彼女たちは家に帰ってもご飯が出て、いつもお菓子ばかり食べて、このあいだ首相の名前を聞いたから「アベノミクス」って言われて、私笑えなくて。安保法制のあの字も知らなくて、ただ明日何食べに行くとか、親に愛されたいとか、そんなこと思っている間に、こんな無茶苦茶なことで法律が通ってと思うと涙が止まらなくて…。その子はここに来ることはできませんから、その子の分も声をあげたいです。

安倍首相は、数の力で憲法違反のことを押し進めることはできませんが、ここに集まっている声を消すことはできません。国民の多くが気付き始めた政権の危うさに対する疑念を拭い去ることはできません。

◎ ▼ □ ☆ ◇ ▲

私たちが自身も昨年夏、「先生、いま国会では何が起きていますの？」と子どもたちから問われたことはなかったでしょう。か？常軌を逸した国会での強行採決とそれを阻止しようとする国会周辺に集まる人々の群れを目の当たりにして、たとえ言葉にならなくても多くの子どもたちは、その問いを私たちに突きつけていると言えないでしょうか？

少なくともこうした子どもたちの問いかけを正面から受け止め、いっしょに考えることが教育に携わる者の責務だと私たちは考えます。18歳選挙権が実現し、高校生が有権者となる今年、まさにそう

私たちの卒業生の半数が非正規雇用となっている実態やブラック企業の横行を許すひとつの原因になっているとみるべきではないでしょうか。

昨年の『アベ政治を許さない』の「クリアファイル調査」を覚えておられることでしょうか。全道の教職員一人ひとりが「クリアファイルを見たことがあるか」などの密告を奨励され、政権を批判する組合活動がまるで違法な活動であるかのような印象を与える極めて意図的なものでした。この「調査」は、私たち教職員に憲法で保障された基本的人権さえ認めず、政治にかかわることを慎み、行政の命ずるままに教育という仕事に携わること強要するものでした。そして「人事評価制度」を導入して、上意下達の学校をつくりあげ、職場での協力関係をこわそうとしています。

これらの動きはひとり組合の問題でなく、教育のあり方の根本にかかわることだと私たちは考えます。それは教育は国家のためのものか、国民と子どものためのものかという根本問題であり、また、私たち教職員の働きがいの源泉が、子どもにある

のか、行政当局の命令にあるのかということでもあります。道高教組は国民の教育権を守ることに教職員の労働条件の向上を統一的に掲げて活動してきました。その成果が5人学級の実現や高校授業料無償化ですが、それを押し戻す動きも強まり、要求の実現はいまだ道半ばにあります。

さらに今年になって、安倍首相は今年の参院選後の憲法改正発議を公然と打ち出すまでになりました。いま声をあげなければ、後世に禍根を残すときではないでしょうか。

今、あなたの組合加入が、現状への強い異議申し立てになります。

かつて高教組の組合員だったみなさん。私たちはみなさんの高教組への復帰を心から歓迎します。

まだ高教組に加入したことがないみなさん。あなたの加入がどれだけ全国の仲間を励ますことになるでしょうか。まずは、あなたの職場の高教組組合員に、声をかけてみてください。

2016年2月20日

道高教組札幌支部
第17回定期大会

新年度 札幌支部役員	
支部長	手稲 桑原岳夫
副支部長	有朋 熊木啓一
書記長	東商 野村健治
書記次長	有朋 福土直尚
執行委員	支 部 尾張 聡
	東 豊 柳 悌二
	白 石 内 村 密
	西 陵 鈴 木 邦 彦
	手 稲 小 倉 一 幸
	あすか 岩 田 康 規
	札 南 伊 藤 仁 志
	有 朋 赤 松 貴 司
	札 北 木 村 栄 二 朗
	石 狩 翔 陽 中 道 洋 友
	石 狩 南 高 橋 理 恵
	石 狩 北 三 瓶 裕 之
	恵 庭 北 道 端 剛 樹
	恵 庭 南 中 野 誓
	北 広 西 大 澤 信 哉
	新 篠 津 高 養 三 田 村 祐 二
	江 別 野 上 徹 哉
	女 性 部 長 手 稲 護 武 藤 素 子
	実 習 教 員 部 長 札 工 石 渡 和 広
	現 業 教 員 部 長 東 陵 角 谷 哲 司
	定 通 部 長 有 朋 鈴 木 孝 幸
	障 害 児 学 校 部 長 新 篠 津 高 養 三 田 村 祐 二
	青 年 部 長 南 陵 山 上 智 史
	養 護 教 員 部 長 札 東 佐 々 木 尚 子
	会 計 監 査 委 員 琴 工 伊 藤 政 伸
	中 央 委 員 有 朋 尾 張 聡
	手 稲 養 護 桑 原 岳 夫